

予算決算総務産業小委員会審査報告書

令和元年9月17日

予算決算常任委員会委員長 風間行男様

総務産業小委員会委員長 荒川詔夫

本小委員会に付託された事件についての審査内容及び経過、意見等を次のとおり報告します。

記

| 事件の番号 | 付託内容 |
|--------|---|
| 議案第54号 | 平成30年度飯綱町一般会計歳入歳出決算中 議会費、総務費、 <u>労働費</u> (シルバー人材センター運営事業を除く)、農林水産業費、商工費、土木費、消防費、災害復旧費、公債費、予備費及び他の小委員会に属さない歳入 |

当小委員会では、上記付託議案について、説明員から詳細な説明を受けながら活発な質疑を行い、審査を行いました。

次に主な質疑、意見について報告します。

■ 議会

【議会費】

質疑なし

■ 総務課

【財政関係】

質疑なし

【総務費】

質疑①：公有財産で指定管理委託事業者に財産の売却はできないか。

回答①：公有財産の売却は可能である。ただ、公有財産は町民の財産のため、公売などの手続きが必要となる。

質疑②：旧牟礼西・旧三水第二小学校の備品の処理はどうなっているか。

回答②：備品の除却に関しては財政係に報告される。他へ移すなどの処理については、教育委員会が対応している。

質疑③：公共施設等総合管理計画策定後の個別施設計画については、策定期限はあるのか。

回答③：国からの正式通達はないが、国の諮問機関でのスケジュール案では、令和2年度までに策定が望ましいとの見解が出ている。

質疑④：公有財産の貸付けや売却を速やかに行えないか。

回答④：売却については、公売の手続きが必要となる。貸付けについては、状況を精査し、できるだけ速やかに実施しているつもりである。

質疑⑤：福祉センター廃止による機能分散は、どのように考えているか。

回答⑤：町内の公民館、集会施設も考えられるが、町の施設では町民会館、多世代交流施設のほか、旧小学校で使える場所があれば今後紹介していく。

質疑⑥：町マイクロバスの使用頻度が多いが、外部使用の場合、安全面から運転者の指定、または運転経験年数などの規制はできないか。

回答⑥：規制を設定する基準が難しい。今のところ規制は考えていない。

意見⑦：公用車を長く良好に使用するため、マイクロバスの運転者規制を設ける検討をされたい。

質疑⑧：職員研修費について、ファシリテーション研修を誰が、どんな理由で、何のために受けたのか。

回答⑧：保健福祉課の係長になるが、業務上の必要性までは確認していないが、自己研さんしたいということで参加させた。

質疑⑨：研修は、全体的に見て実務上や住民の対応に関する研修は充実していると思うが、役場内、病院内におけるマネジメント能力向上研修の必要性を感じているか。例えば、職員の中でハラスメントやメンタルヘルスの対応については上司が担うため、その能力向上のための研修の必要性を感じているか。

回答⑨：平成30年度は、特にテーマを定めたわけではないがコンプライアンス研修を中心に実施した。ハラスメントとメンタルヘルスについては、今年度5月に係長以上の職員を対象に管理監督者の心得について、また6月には全職員を対象に実施している。

質疑⑩：職員で体調不良を訴えたり、休職したりする者がいるように聞くが、現在の休職者数は。また、その背景的なものは何か。さらに、その改善に向けての対応策は。

回答⑩：病院を除く役場関係では、現在休職者は3名。長期にわたって休職している職員は、その事由が心身の故障による者がほとんどである。メンタルヘルス研修などを職員向けに実施しているが、原因が仕事なのか、家庭の事情なのか、また、いくつもの要因が重なって体調を崩すのか対応が難しい。仕事だけが原因であれば、現在も行っている環境を変える等の対応は可能だが、メンタル面の対応はなかなか難しい。

質疑⑪：精神的に何か負担になることがあって体調を崩すのか。役場としては、ケアは難しいのか。

回答⑪：理由はおそらく単純ではなく複雑なので、まずは医師の指導の下、休んでもらう。役場としては、超過勤務はどうだったのか。土曜、日曜日の出勤はどうだったのかなど、仕事上の要因はなかったのか検証を行う中で対応している。

意見⑫：相談に乗ったり、職場環境の改善を図ったりするなど、役場でできることはしっかり行い、精神的な休職者を増やさないように努めてほしい。

回答⑫：飯綱町役場や公務員に限ったことではなく、民間も含めどこも対応には苦慮しているし、事案件数も増えている。職場環境だけで改善、予防できることであれば、理事者等の理解も深く、当町でも既に人事異動等で環境を変えるなどの対応を行っているが、なかなか難しいところがある。

質疑⑬：隣接町村と比較して、飯綱町の休職者数はどうなのか。多いということであれば、職場環境が要因として考えられるがいかがか。

回答⑬：職員数にもよるが、長野県では毎年休職者が出ているようだ。また、総務課長会議で隣接する町村の状況を聞いても、人数は分からないがいるとのことである。

質疑⑭：庁舎建設費で、支出内容に補償調査等その他業務委託で1,055万8,080円とあるが、支出の詳細は何か。

回答⑭：補償調査算定業務で248万4,000円、牟礼庁舎旧館建物調査・診断業務で299万1,600円、牟礼庁舎本館構造検討業務で154万4,400円、飯綱福祉センターアスベスト分析業務で22万6,800円などである。

質疑⑮：町長交際費で、現在指摘され社会問題化している政教分離の原則については、きちんと対応しているか。

回答⑮：総務課で注視する前に町長自ら気をつけている。新聞等で話題になっていることで呼ばれることは当町ではないが、一部の神社例大祭に呼ばれることがあり、自費で自家用車等により出席しており公費支出はない。

質疑⑯：やぎ大活躍プロジェクトで、昨年も今年も「知名度が向上し、牟礼駅の利用につながっている」とのことだが、利用率など具体的な数値はあるか。また、昨年は「やぎを活用した除草による荒廃地解消のための実証実験が求められる」との記載があったが今年はない。実証実験の必要性がなくなったのか。

回答⑯：しなの鉄道を利用して来町する方や、車で来てやぎと直接触れ合いたいとのことで入場券を購入して触れ合う方など、特にしなの鉄道、委託業者に統計を取るように指示していないので正確な数値はないが、委託業者等からの聞き取りや来町者の声を聞く中で感じている。また、除草の実証実験は、飼育頭数が少ないことからできない状況である。

質疑⑰：行政連絡費の関係で、小さい規模の集落は今後ますます運営が難しくなる。今後も行政として積極的に区・組の再編を進めてほしい。また、町からの配布物が地域で負担になってきている。配布は1年に何回ぐらいか。何か負担を軽減するような方法は考えているか。

回答⑰：町からは毎月1回の配布をお願いしているため年12回。ただ、配布後に回収が必要な場合もあるため、実際にはそれより多くなることもある。また、負担軽減の方策については、区代表者会議や区長・組長会議などで地区から要望として上がっていないので検討したことはないが、今後、区・組の再編にあわせ考えていかなければならないと考える。

質疑⑱：ふるさと応援寄附金事業で、寄附額が落ち込んだ理由は、年度当初の返礼品事業者との会合が遅れたことが一番の原因と思うがどうか。また、現在事務局はどこで行っているのか。

回答⑱：その理由は一つの要因ではあるが、一番の要因は、前半の寄附額が前年比4割と低迷していた状況が、ポータルサイトを増やしたことで最終的に63%まで回復したことからも、インターネット上で案内するサイトが少なかったり、マンネリ化したりしていたことが大きく影響したと考えている。納税者は常に新しいものに目が向き、ポイント等の特典があるものに興味を示すと思われる。事務局は、基本的にはこれまで同様総務課であるが、今年度から一部業務を「カンマッセいづな」に委託しているので、総務課と企画課で対応している。

質疑⑲：防犯対策費の工事請負費49万4,540円の支出は、防犯カメラ設置工事費か。

回答⑲：防犯灯の新設、移設、維持管理工事22件の支出である。

【消防費】

質疑①：粉ミルク、子ども用・大人用おむつ、女性の生理用品は備蓄品として必要だが、準備されているのか。

回答①：ミルクについては福祉関係部署からの指摘もあり、備蓄品として整備する方向で検討している。おむつについては若干の備蓄がある。また、生理用品についても必要品であるので整備していく。なお、これまでは非常食中心で整備を進めてきたが、今後はその他の必需品の整備も必要と考えている。

【公債費】

質疑なし

【予備費】

質疑なし

【財産に関する調書】

質疑①：田畑の所有面積が多いがどこにあるのか。また、どのような状況なのか把握しているか。

回答①：1カ所ではなく、道路拡張事業などの残地が多い。細部の状況までは把握していない。

■ 企画課

【総務費】

質疑①：情報発信強化事業を担当していた地域おこし協力隊員が、須坂市や小布施町の事業も行っていたが、これに関し飯綱町としての効果検証はあったのか。

回答①：須坂市や小布施町の事業については、隊員が地域振興局商工観光課から依頼を受けて実施したもので、外国人の視点でこの地域のことを考え、広い範囲で活動したことは評価できると思う。

質疑②：地域おこし協力隊員によるW e b発信事業は、町公式W e bサイトへのアクセス増に寄与しているのか。

回答②：町公式W e bサイトとW e b発信は性質及び目的が異なるが、W e b発信は町外の方からの評価が高く、飯綱町の情報へ閲覧者を引き寄せていると考えている。今後、移住に向けた情報の掲載や全国的な移住促進W e bサイトへの情報登録等も進めていきたい。

質疑③：冊子「100 PROFESSIONAL PEOPLE」の発刊後、人材発掘及び交流事業は実施しているのか。

回答③：発刊は3巻で100人を紹介して完了し、交流事業も発刊の際に実施した後は行っていない。新たな冊子の発刊は費用面で困難なため、W e b等を活用し人材発掘を進めていきたい。

質疑④：「Z Q（ズク）」で実施する業務の内容は。

回答④：空き店舗の活用と小学校跡地活用の試験的实施を目的とし、平成30年度中は地域おこし協力隊員が管理運営してきた。本年度は管理運営を「カンマッセいづな」に委託し、職員1名が管理運営業務を行っている。

質疑⑤：各種委託事業の契約相手の選定はどのように行ったのか。

回答⑤：入札、プロポーザル方式等により選定した。一部の事業はコンセプトの継続性から随意契約している部分がある。

質疑⑥：国、町における地方創生事業の今後の動向は。

回答⑥：国の方針により、地方版総合戦略は今年度改定していく見込みである。町の推進交付金事業は全体で20億円程度の事業費であるが、本年度で約4分の3が完了見込みで、令和2年度以降はおおよそ5億円の事業費が予定されている。昨年度から本年度が事業実施のピークであり、飯綱町は県内、全国でもトップクラスの事業を実施しているが、今後は足元の成果を固めていく段階と考えている。

質疑⑦：地方創生交付金の交付率は。

回答⑦：事業費の2分の1である。ハード事業は全体事業費の2分の1までとされており、ハード事業費の2分の1（補助の残り）は起債が可能。ソフト事業費の4分の1は特別交付税措置の対象となる。

質疑⑧：委託業務が多いが、どう考えているか。

回答⑧：多方面から指摘をいただいている。複雑な業務が多く、地域内での引受けが困難と思われるため、現時点ではやむを得ないと考えている。事業実施の中で地域の人材を育て、地域の仕事となるよう推進していく。

質疑⑨：「自然の中の暮らし魅力創造発信事業」に、高岡109委員の皆さんは関わっているのか。

回答⑨：体験プログラム開発、ツアーや大学との共働プロジェクトなどに関わってもらい事業を進めている。

意見⑩：今後、更に各地域で地域再活性化事業が活用されるよう求める。

意見⑪：連携中枢事業についても、今後成果や課題について議会に報告するよう求める。

質疑⑫：信濃町では民間事業者により、買い物弱者対策として移動販売を行って好評だと聞いているが、当町でも既存のキッチンカーを活用し、そういった事業に着手できないか。

回答⑫：キッチンカーのような大きな車よりも、コンパクトな軽自動車などで実施した方が効率的ではないかと思うが、住み慣れた地域で安心して住み続けられる町を目標に、買い物支援も一つの項目として挙げられているので、建設中の多世代交流施設の活用とともに、社協などと考えていきたい。

質疑⑬：アイバス運行事業について、当初は年間4,000万円程度であり、その金額以内で推移していくことが望ましいとしていた。しかし、年々支出額が増えているが、この経緯は。

回答⑬：平成30年度決算では4,900万円程になっており、この中には車両購入補助が400万円程含まれているため、実質運行に係る補助金は4,500万円程度となっている。運行開始から10年以上が経過する中で、人件費や燃料費が高騰していることに加え、利用者の減少もその要因であるが、バスは移動手段

として重要なものであるのでご理解いただきたい。

意見⑭：当初の見込みと変わってきており、支出額が増えている理由を丁寧に説明することを求める。

質疑⑮：高齢者が使用する「であるきバスカード」と、高校生が使用する「くるるカード」の違いは何か。

回答⑮：「であるきバスカード」は、一定区間を上限200円で乗車できる70歳以上の高齢者専用カードである。

質疑⑯：高校生の「くるるカード通学定期券」の補助とは、具体的に何か。

回答⑯：長野市内などで、高校生がバス通学のために「くるるカード定期券」を購入した場合に50%を補助している。

質疑⑰：運転免許証自主返納者支援について、新規申請25件、継続者18件とあるが、これはどういう内容か。

回答⑰：事業内容は、運転免許証を自主返納された申請者に対し、1万円相当を最長5年間支援するもので、「アイバス回数券」、「長電バスICカード」、「しなの鉄道 牟礼～長野間 普通回数券」の3種のうち、希望する2つまでを選択していただくようになっている。その新規申請が25件、継続が18件あったということである。

質疑⑱：コンサルタント業務などにおいて、プロポーザル方式による随意契約が増加傾向とあるが、いくら継続事業であっても年度ごとに入札すれば良いと考えるがいかがか。

回答⑱：一般競争や指名競争の各入札は、価格を比較して競争させることが一般的であるが、プロポーザル方式は技術や情報等を複数業者に提案してもらい、価格だけではないプレゼンテーション等により競争の上、評価し、その結果として優れていた業者と契約するものであり、一定の競争性はあると考えている。また、大きな事業を遂行していく上で、1年の間で完了させることは難しく、ノウハウであったり、契約相手方が変わることでよりゼロからやり直しになったりと、どうしても継続性を持たせなければならない事業があることもご理解いただきたい。ただ、事業を見極めながら、年度ごとに区切ることができる事業については、その都度、入札等をするよう注意していきたい。

質疑⑲：当町はいろいろな事業を行っており、様々な大手業者と契約しているが、業者には積極的にふるさと納税に協力してもらえないか。

回答⑲：社員への協力依頼となると個人的な話なのでできないが、企業版ふるさと納税などもあるので、そちらへの協力を検討していきたい。

■ 税務会計課

【総務費】

質疑①：固定資産税の評価について、宅地の7割評価というのは法律で定められているのか。

回答①：法律ではなく、公的土地評価の均衡化・適正化の要請に基づき、全国一律で7割評価としている。

質疑②：7割ではない市町村もあるのか。

回答②：全国一律と解釈しているので、他市町村については把握していない。

質疑③：滞納整理機構に徴収を任せることには良い面と悪い面がある。滞納整理事務の執行にあたっての気持ちは。

回答③：移管する案件は古いものが多い。町村では徹底した財産調査ができないため、滞納整理機構に調査してもらい、換価できるものがあれば換価し、換価できなければ執行停止し不納欠損としている。臨戸が嫌というわけではなく、処理しきれない部分を移管している。

質疑④：コンビニ収納について、税以外の各種料金等の納付を各課横断的に検討とあるが、具体的にどのような料金があるのか。

回答④：後期高齢者医療保険料、介護保険料、上下水道料等がある。利用者から、なぜ税金だけなのかという声もあるが、手数料として1件60円掛かることも踏まえ、費用対効果を考えた上で担当課からの要請があれば収納係が窓口となって進める考えである。

■ 住民環境課

【諸収入（住宅新築資金等貸付事業）】

質疑なし

【総務費】

質疑①：マイナンバーカード取得率は県全体と比べて低いのか。

回答①：低い。

質疑②：その理由は。

回答②：コンビニ交付サービスが導入されていない等メリットが少ないと思われる。必要としていない住民の方に対し、無理に取得を勧めることもできない。

質疑③：本籍人口とは。

回答③：住所がどこにあるかは関係なく、本籍を飯綱町に置いている人口数である。

質疑④：平成28年度は転入と転出の差がマイナス4だったが、何か理由はあるのか。

回答④：特別な何かがあったわけではなく理由はない。

■産業観光課

【労働費】

質疑①：町の職業斡旋の内容と実績は。

回答①：就職情報については、求人情報を毎月更新し三水庁舎窓口に一覧を配置している。窓口での就職相談は月に3～4件。

【農林水産業費】

質疑①：農業関係については補助金が多い分野であるため、利用促進のためにも補助事業の一覧表等を作成し配布するとしていたが、どうなっているか。

回答①：以前、話があった後、ホームページ上に町の補助金をまとめたものを掲載した。一覧表等の配布については、分かりやすいものを発信・周知していく必要があるため、方法等も含めて今後検討したい。

質疑②：執行率の一覧表を見ると、25番の6次産業化推進事業が0.9%である。国庫補助金が少なかったためなのか、説明をお願いしたい。

回答②：毎年、補助金を申請し採択という流れになっており、今年度も申請し事業を進めている。借入に係る利息部分や印紙代については補助対象外のため、若干の支出となった。補助金は獲得したが交付は年度末となる。しかし、事業は既に進めているため、資金の借入れに対する利息等については一般財源で支出し、残りは全て国庫補助で実施できたということである。

質疑③：農村交流整備事業の不動産鑑定等の財産購入費について、高いと感じるが、これに関する詳細な説明をお願いしたい。

回答③：購入にあたっては適正な評価をする必要があるため、不動産鑑定士に鑑定を依頼している。取得価格については、商業地に近いということもあり、通常に比べると評価が高く、また県道沿いということも評価され、㎡単価が1万2,000円という評価が出たのでこれを基に決めた。町が財産を購入する際は不動産鑑定をし、それを基に購入することとなっているので、金額については鑑定結果を基に決め、契約するということになる。これについては宅地で借りていた駐車場の部分を購入している。

質疑④：農村振興負担金、補助金について、天候不順であっても10a当たりの補助等を検討できないか。

回答④：この補助金については、遊休農地を減らすことにもつながっているため、今後検討していきたい。

質疑⑤：6次産業化については7事業にわたり行っているが、そのうち日和の運営指導がある。どのような指導をしてきたのか。また、今後はどうなるのか。

回答⑤：6次産業化推進協議会では、町の農業をどのように活性化させていくかといった大きなテーマを考えていき、実際に実行する際は、「世界に誇る力強い産業形成事業」で行っているといったイメージで進めている状況。店舗

の運営全体を農家で行うこととなるため、経営や運用面での指導は必要で、この部分についてより良い経営となるよう交付金を活用し進めている。経営者会議を月に1回行うなど、アイデアを出し合いながら広告作成等も行ってきたが、良好とは言えない状況であったため、この4月からは新聞の折り込みチラシやマスコミを活用したテレビでのPR等を行い、盛り返してきている。効果は出てきていると思われるので、経営は続けていきたい。経営については、今後3つの直売所の機能強化を進めるとともに、来年1月を目途に公社への統合を考え進めている状況。それまでには赤字部分はできるだけ解消していきたいと考えている。日和についても公社での経営へ移行していくように考えている。

意見⑥：メニュー等、工夫すべき部分は多くあると思われるので、是非いろいろな検討をしていただきたい。

質疑⑦：日和の関係で、振興公社が新しい経営母体となったときに、経営指導に産直新聞は入るのか。

回答⑦：来年度について、産直新聞へ業務委託するかどうかは未定である。

質疑⑧：今後は、広告宣伝費を掛けてメディア等への露出があるということだが、最初は来客が多くなると思う。リピーターをどう増やしていくかという部分を産直新聞にお願いしたいところだと思うが、この辺りはかなり強化して考えているのか。

回答⑧：リピーターは非常に大切だと考えている。そういう部分も意識しながら進めていきたい。

質疑⑨：オペレーションについて、手間が掛かる等で人数が多いという説明が去年あったが、現在は3人で行っているのか。この辺りも経費的な視点で計算されているのか。

回答⑨：現状ではオペレーションは3人であり、1人はヘルプとして短時間の依頼をすることもある。また、直売所とも連携しながら行っている。今までは、経営を考える人がいない状況だったが、今後公社が経営することになれば、今までよりも経営改善されることは間違いないと思う。

質疑⑩：日和の場所が分からないという話を以前にしたが、何か対策等は行ったのか。

回答⑩：お盆前頃には大きな看板を設置して誘客促進を図った。

質疑⑪：三本松の加工所について、りんごジュースの機械設置の計画があると聞いているが、その際は消費期限を長くできるような機械を導入してほしい。そのような予定はあるか。

回答⑪：消費期限については、1年のものから2年のものもある。町として参考としたいのが、南信の「小池加工所」。そこは2年で味も良い。技術を提供しても良いという話もいただいているので、検討を進めていきたいと考えている。

意見⑫：中野市の「たかやしろファーム」も参考になると思う。搾りかすも出ないし、2年の消費期限でやっているのを参考にしてはどうか。

質疑⑬：農業委員について、当初、組織が変わる時に課題があったと思うが、委員と推進委員との連携等についてうまくいっているのか。

回答⑬：現在、16人の農業委員で国の基準は満たしており、推進委員との連携も取れている状況。農地の流動化については、推進委員の率先した動きが必要で、ハンドリングを事務局としては考えていく必要がある。

質疑⑭：いちごについて、早めに方向性を見いだしていくべきだと思うがいかがか。

回答⑭：この積雪、標高の地で栽培ができるかどうかという実証実験を横手地区で行ってきた。1年間の結果としては、冬期間でも日射量が予想以上にあり、冷涼な気候が適しているということで、いちご栽培の適地であることは分かった。また、経費についてもこの1年間で費用や収量のデータがとれた。今後は、いちご栽培技術の民間への普及が課題となる。現在、町内の企業から地域貢献ということで、いちご栽培技術の普及について協力したいといった提案をいただいている。詳細は今後詰めていくが、信大と企業と町の3者で、うまくいけば進めていくことができるかもしれない。町はいちご栽培について、第1ステップとしては適地かどうか。第2ステップとしては希望者に技術を提供する場を与える。そして、第3ステップとして民間に広げていくという方向で考えている。現在は第2ステップへ進もうという段階である。

質疑⑮：りんごのPRはしているが、モモや米のPRがない。飯綱町にあるものを全般に挙げてPRしていった方が良いのではないか。

回答⑮：ガイドブック等ではモモや米も掲載しているが、これからも高品質な特産物についてはPRしていく。

質疑⑯：農業体験交流事業の中で、観光協会に委託している事業は何か。

回答⑯：農泊事業、りんご収穫体験、りんごオーナー制度。

質疑⑰：観光協会の事務局長はどうなっているのか。

回答⑰：前局長が6月末で退職し、現在は観光協会長が兼務している。現在、求人中と聞いている。

意見⑱：事務関係は人員体制を整えて実施しないと事業がまわらないので、その点をしっかり指導してほしい。

質疑⑲：小リスのマルシェについて、場所があまり良い場所ではないと聞いているが、費用対効果は。

回答⑲：しなの鉄道が軽井沢駅のデッキに設けて、沿線自治体に依頼があり、5市町（上田市、千曲市、小諸市、東御市、飯綱町）が参加した。会場内の子ども向けの区画の中で沿線市町村の農産物を売るというもので、コンセプトにずれがあるものだった。3月までの予定だったが10月末で打ち切りとなった。期間内に直売所等と会議を設けたり、広報等で町内業者に出展募

集をかけたりしたが反応が悪かった。それでも、5回（8日間）出店し販売を行ったが、売上げは8万円弱という結果だった。

意見⑳：長野駅の観光案内所に置いてある飯綱町のパンフレットについて、良いものを置いてもらいたい。

質疑㉑：有害鳥獣害対策について、用水にコンクリート製の橋が所々架かっているが、イノシシがそこを渡ってくる。橋をグレーチング製等にして、イノシシの足が落ちるような構造にすれば進入を防げると思う。検討願いたい。

回答㉑：今後、新設する際には検討する。

質疑㉒：有害鳥獣対策について、狩猟期以外の捕獲数と飯綱町の生息数は。

回答㉒：狩猟期以外の有害鳥獣の捕獲数は行政報告書 211 ページ参考 1 図のとおりである。町内の生息数は把握できていないが、被害額を比較するとほぼ横ばいと思われる。

質疑㉓：イノシシの他に最近ではニホンジカや鳥の被害が非常に増えているという声がある。今ある電気柵等の補助金の内容も含めて、抜本的な対策も必要と考える。例えば、飯綱町では補助対象にしていないガスの爆音機まで補助対象にすることを考えたらどうか。

回答㉓：現在の有害鳥獣害対策は、電気柵やガス爆音機に替わる電子爆音機等の購入補助と猟友会の駆除による個体数調整が主なものである。今後は、個人の対策だけでなく、集落全体で農地を守る取組に力を入れていく。今回の補正予算には、集落や営農団地等を囲む侵入防止柵の整備する事業予算を上程している。

質疑㉔：有害鳥獣捕獲について、うり坊に対しても補助をして欲しい。

回答㉔：うり坊に対して県からの補助金はないが、町では単費で補助金を交付している。

【商工費】

質疑①：現在、産業観光課に地域おこし協力隊員が何名いて、どういう仕事をして、どういう課題を持って進めていて、どういう成果が挙げられているのか。

回答①：キッチンカーの担当については、所管が企画課なのでそちらで聞いてもらいたい。現在、産業観光課にいる地域おこし協力隊は3名。1人目は今年の1月1日から雇用している女性で、将来は農産物加工所を担っていただくために加工の勉強をしている。いずれは加工所の責任者になってもらう方だと思っている。2人目は4月1日から雇用している女性で、いちごを担当している。いちご栽培を民間に広げていく中心的なメンバーになっていただきたいと思っている。3人目は男性で、りんごの栽培を本格的にやっていたり、将来的にはりんご農家として育てていただきたいと思っている。いずれも公社に配属されており、社員と同じような勤務体系であり、活動内容についても課で把握している。将来的には加工所を背負う、

いちご栽培を背負う、りんご栽培を背負うという明確な目標に向けて活動をしていただいている。

質疑②：銀座 NAGANO に関する事業はやっているのか。

回答②：昨年、町では銀座 NAGANO を使ってはいないが、首都圏のイベントには参加している。昨年1カ月間、千代田区でアンテナショップを行った。農産物のPRなどはしっかり行っている。銀座 NAGANO では、単なる物販ではなく、いろいろな文化を発信する場として企画等を検討してみたい。

質疑③：スキー場の営業について、実際にFPCの経営状況は把握しているのか。

回答③：実績としては、昨年と比較して減となっているが、これは今までと算定方法が変更されているため、今までと比べて厳密な算定をしているようだ。また、昨シーズンは初めての営業のため、今までと同じようにやっていたが、シーズンが終わり、メインターゲットが少しずつ分かり始めている。本格的にスキーを楽しむ人というよりは、子ども連れのファミリーが来る可能性が高いとして、この層をメインターゲットとして営業をしていくような話を聞いている。

【災害復旧費（農林水産施設災害復旧費）】

質疑①：霊仙寺山土砂崩落災害復旧土留工事の工法は何か。

回答①：フトン簗を使用した土留工である。

■建設水道課

【農林水産費（国土調査事業）】

質疑①：今まで国土調査をやってきた中で成立率はどうか。また、課題も教えてほしい。

回答①：筆界未定の割合は把握していない。平成30年度は筆界未定もなく、現地調査は終了している。官地もあるが、民々界の立会いにより筆界を確定していくものであるため、町が積極的に介入するべきではない。後々、国調不振につながりかねないため、所有者の立会いの下、慎重に進めていくものと思われる。今後も、国調の趣旨や意味合いを説明していき、根気強く進めていかなければならない事業だと思われる。

【土木費】

質疑①：除雪職員手当等と直営等賃金の違いとは。

回答①：職員手当は町の職員の雪見当番、また除雪作業をした分の手当であり、直営等賃金は町で雇っている個人のオペレーターの除雪賃金である。

質疑②：道路新設改良費の中、事業の課題で「申請から何年も未実施のままの箇所

が多く」とあるが、どういう意味か。また、対策は考えているか。

回答②：予算を立てる際、土木申請部分と中規模な道路改良事業を併せて予算編成している。この場合は、町単事業の区・組からの土木申請があるが、箇所数が多く実際に実施するとなると多額になる。よって、対策とすれば、現在必要な箇所をもう一度積算し直してみる必要がある。また、予算は1,000万円を2,000万円に増額している。中身については道路の維持的なものも含まれている。道路改良工事については予算が限られているので、必要であれば1年ではなく何年かに分けて実施する所もある。

質問③：県道長野荒瀬原線の平出地区において、アダプト方式という清掃・除草等の看板が立っている。これはどのようなものか。あの地区だけが実施しているのか。

回答③：県の事業であるアダプト事業のことであり、横手地区もやっていると思われる。県道の美化をやりたいと申し出て、県と協定を締結し実施していると思われる。それに対して、県からは維持管理に対する補助が出ている。同じケースで、町においても町道であれば道路愛護事業として各地区に取り組んでいただいている。県のアダプト事業は、作業にかかった消耗品の提供を受ける事業である。

質問④：道路新設改良費について、各区や組からの申請事業の未実施が残っているとなっているが、予算執行状況を見ると2,058万円で36.4%となっている。執行率を高めればもっと事業ができたのではないか。

回答④：不用額として2,200万円程ある。平成30年度では3路線実施していないが、理由があり今年度実施する。具体的には、平出地区内の町道M1-20号線は、他工事の迂回路としたためである。また、坂上地区内の町道K1-4号線は路盤再生工事を5月に実施しているが、ニチアス運搬路になっており、日程の調整ができなかったため、今年度、影響が少ないと思われるゴールデンウィークに施工した。さらに、北信五岳道路の交付金事業があり、風坂汐水線を優先したため、場所を移して令和元年度に早急に実施する予定である。よって、繰越ではなく未実施だったということであり、一旦平成30年度予算を未実施として、令和元年度に改めて計上している予算である。

質問⑤：町営住宅費で、同じ事業で3棟造っているのに1棟になっている。どのように処理しているのか。

回答⑤：3棟とは、新規就農者住宅と思われる。町営住宅では、毛野で1棟の住宅をお借りしている。

質問⑥：都市計画区域内に平成28年度から三水地区が入った。その後のデメリットとメリットとは。

回答⑥：身近なデメリットについては、接道がないと家が建てられない等の制限があること。ケースにもよるが規制があること。最近では、業者から事前協議や問い合わせもあるので制度は浸透してきている。なお、今年度は大きな

トラブルは発生していない。今後も趣旨をご理解いただきながら進めていきたい。また、都市計画外だった時も事業者からは工事届を提出いただいていたので大きな行き違い等はなく、問題はない状況である。メリットとしては、接道がある箇所に火事地震災害に強いまちづくりができるようになった。また、4 m以下の道路（2項道路）でもセットバックすることによって、将来は都市計画事業で道路改良計画等ができる可能性もあることがメリットと言える。

質疑⑦：若者定住住宅償還金の2,390万円だが、利息の50万円と合わせ合計は2,440万円。収入が1,500万円と93万8,000円であり、収入に対して支出が多くなっている。不足分はどうしているのか。

回答⑦：一般会計であるので予算内で賄っている。

意見⑧：若者住宅で空いているところがあるので、できるだけ早期に入居募集をして収入確保に努めてほしい。

質問⑨：山本食品出入口付近の町道M3-496号線の改良工事を行ったが、下層や表層の厚さはどのくらいか。

回答⑨：そこまでの資料が手元になく把握していない。地盤は元々ある既存の未舗装道路であり、試験結果の舗装構成になっている。

意見⑩：福井団地内に表層がアスファルト舗装のところは亀の甲になっている場所がある。今後、表層だけでなく、下層も含めて気をつけて舗装するよう注意してほしい。オーバーレイなど施工してほしい。

【災害復旧費（公共土木災害復旧費）】

質疑なし

平成30年度飯綱町一般会計歳入歳出決算のうち、当小委員会で審査した内容は以上のおりです。これらの決算認定について、反対の意見はありませんでした。

以上